

第1回津島市子ども・子育て会議議事録

日時

平成29年7月25日（火）午前10時から午前11時まで

場所

津島市生涯学習センター 第6会議室

出席者

向井委員、清水委員、千賀委員、堀田委員、岡本委員、山田委員、桜井委員、木子委員
星野委員、安藤委員、四倉委員、田中委員、加藤委員 以上13名

欠席者

瀧本委員、猪飼委員、浅井委員、横山委員 以上4名

事務局

水谷健康福祉部長、棚橋子育て支援課長、野口指導保育士、瀧川子育て支援GL
林児童保育GL、藤倉主査、田山主事

1. 開会 事務局員
2. あいさつ 水谷健康福祉部長
3. 委員紹介 委員による自己紹介
4. 会長選任

向井委員を会長に選任。山田委員を職務代理者に選任。

5. 議題

(1) 子ども・子育て支援事業計画（教育・保育の量の見込みと確保方策等）について
（事務局説明）

（会長）

3号認定の0歳児の数字をかなり変更していますが、この数値は平成30年度・31年度の3号認定の1・2歳児の数字に反映していますか。

（事務局）

反映した数字になっています。

（委員）

3号認定の0歳児の数字なんですが、28年度は年度当初と年度末を比較して、だいぶかい離しているということなんですが、27年度はどうでしょうか。

（事務局）

平成27年度は24名から最終的には80名ということで、途中入所者数は56人。平成28年度は先ほど申し上げましたとおり75名の途中入所ということで、年々増えているという認識でございます。

（会長）

そうしますと、これから年々増加するということについても考えていかねばならないということでしょうか。

（事務局）

当市におきましては、27年度、28年度の傾向を見る限り、0歳児の途中入所が多くなっているという現状がございます。少なくとも0歳児の途中入所について、対策を考えていかなければならないと考えております。

(会長)

1号は見直さない、2号は案のように見直していく、0歳の3号の認定については、増加分について考慮しながら決めていくということになるかと思えます。

(委員)

先ほどの続きなんですけども、27年、28年と増加しているということなんですけど、市としてはなぜ増加しているのかということは把握されてますか。

(事務局)

出生率の低下や、低年齢をお持ちのお母さまが、仕事を始められる時期が昔よりも早くなってきているということが要因と考えています。

それに加えて、育児休業とかの福利厚生を整備されている会社が増えてきていますので、1年で育児休業から復帰されたりする方も増えていると考えております。

(会長)

育児休業の比率は増加しているということで、今後も増加していきそうですね。

(事務局)

お母さまの正社員の継続率も増加していくと考えております。ただし、保育施設の低年齢児のお子様の受け入れ枠は、どうしても限度があるものですから、今後の状況をみながら懸案事項としてみていく必要があるかと思えます。

(会長)

平成31年度まで数字は出てますけれども、修正しながら変更していくということでもよろしいですか。

(事務局)

はい、そうです。

(委員)

2号認定が大幅に減っていますが、これはどのようにお考えですか。

(事務局)

元の計画の数字は市民アンケートの結果によって作られております。今回は、実際に2号認定として保育園、認定こども園を利用された方の実績に基づいて作成しました。確保方策が740になっていますが、もう少し減らして、その分、先ほどの3号認定の0歳児の対応とか、足りていないところに人を回す考えでございます。

(委員)

懸念しているのですが、就学前に転出していこうという傾向がみられるのでしょうか。

(事務局)

今のところ、そういった就学前に転出していくという把握はしていません。

今、委員さんからそういったご指摘がありましたので、調査を検討します。

(委員)

医療手当の支給の限度の年齢が低いので、他市に移る保護者の方はたくさんいるかと思

います。

(委員)

サークルやっているのですが、そのうち1人が愛西市に引っ越ししました。過去にも、このように他市に引っ越しされていくので、サークル自体が消滅していくということがありました。

(会長)

1号認定は微増なんですけど、2号認定がかなり減っているのはその影響があるかもしれませんね。事務局、いかがですか。

(事務局)

医療手当の影響があるかもしれません。ただ、一番重要なのは確保方策だと思いますので、果たして確保方策を減らしていいのかということは、課だけではなくて部全体で考えていかなければいけないと思いますので、検討させていただきたいと思います。

(会長)

ありがとうございました。あと医療手当以外の可能性というのはお耳にされている方はみえますか。

(委員)

私の実家は公園が多いです。こどもの遊べる場所も津島は緑とかある割には安全面として少ないかなあという印象はやはりありますので、そういった意味で公園など、学校近いかいろいろな面で考慮して移られている面もあるかもしれないですね。

(会長)

ありがとうございました。津島市の人口も少しずつ減ってきているという面もありますので、全体的に考えていただければありがたいなと思います。

(事務局)

わかりました。今回は津島市子ども子育て支援事業計画ですが、それ以外にも、津島市には総合計画や都市計画がありますので、そういった点につきましても子育て支援課として、他の計画にも反映していけるように、課として意見を挙げていきたいと思います。

(会長)

ありがとうございました。その他はよろしいでしょうか。

(委員)

ファミリーサポートセンターからなんですけど、0歳児、3号認定のところで、ファミサポへの登録に、母子家庭の方とか未婚の方の登録が最近ちょっと増えてきている状況があります。出産して0歳児ですぐ預ける家庭も見受けられます。量的の確保ももちろん大切だと思うんですけども、そういった家庭の背景も踏まえて、支援とかお願いしていきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。そういった方面での対策は。

(事務局)

検討しまして、確保方策も考えていきたいと思います。

(会長)

よろしくお願ひいたします。

(委員)

先ほど転出の話が出たんですけど、近隣市町村の受入人数の変更とかそういったものは比較されていますか。

(事務局)

ごめんなさい。近隣市町村の受入人数の把握はしておりません。

(委員)

外に出られている方もいれば、元に戻ってこられる方もいらっしゃいます。0歳の3号認定とか考える際に、また一つのテーマになるかなと思います。

(会長)

ありがとうございます。近隣の人が行ったり来たりということも、他の市に住んでいながら違う市に預けているという方もいらっしゃったりするのですね。

(事務局)

そういった方も見えます。

(会長)

何人ぐらいがみえるかおさえられていますか。

(事務局)

委託でお願いしていますので、数字の方は把握しておりません。

(会長)

そのあたりの変更は今のところはないのですか。

(事務局)

受入側の話になってきますので、他市の受入人数をどうしていくかという話になってくるかと思います。

(会長)

その辺の変化も踏まえながら、ちょっと考えていく必要があるのかなと思いますので、よろしくお願ひいたします。その他、いかがでしょうか。それでは議題2の説明の方をお願ひいたします。

(2) 子ども・子育て支援事業計画（地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと提供体制の確保）について

(事務局説明)

(会長)

ありがとうございました。委員からご意見等ございましたらお願ひいたします。

(委員)

病児保育事業に関してなんですが、28年度の実績は93人ということで数字が上がっていますが、これは実際に使った方の数でしょうか。例えば使いたかったけどお医者様の許可が出ずに使えなかったお子さんの数とかは含まれてたりしますか。あと、ファミサポでも病児の預かりをしています、その数字というののどこかに含まれているのでしょうか。

(事務局)

お医者様に断られたことについて、数を把握しておりません。ファミサポにおける病児病後児の人数もこちらの数字には含まれておりません。

(会長)

増加がみられたりとかはあるのですか。

(委員)

昨年度、病児の利用はありまして、神島田保育園さんの病児の利用ができずにファミサポでの利用になったというケースもありますので、そういったところも数を把握していただけたらと思います。

(会長)

断られたというのは、今日は預かれないとか、園側の都合だったのですか。

(委員)

例えば、インフルエンザにかかったすぐ後とかは、許可が出なかったりとか、受け入れが難しいとかもあります。

(事務局)

神島田で行っております病児病後児の預かりにつきましては、医師の方の情報提供書というものが必要となります。何か急変に遭った時のことを考えると、病気が治っていないお子様の預かりについては、病院の方の許可がない限りは、お預かりができない状況となっております。

ただ、病児のお子様を預かっていないというわけではなくて、診断でOKがでていれば、預かるということもございます。昨年1件か2件の実績があったかと思います。

(会長)

ありがとうございます。神島田でお預かりできないというお子様がファミサポのところに回ったということ、そのあたりで、連携して情報交換しながら対策を考えていく必要があるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。その他、いかがでしょうか。

(委員)

他の市町村や県外の研修等に出かけますと、5歳児健診を取り入れている話を最近よく耳にするんです。今津島ですと、4カ月健診、1歳半健診、3歳児健診というものがあると思うのですが、就学1年前の5歳児健診があると、なかなか自分のお子さんの発達障害を受け入れられないという方にも、受け入れてもらえる可能性が高くなり、小学校に送り出すにあたってスムーズな移行ができるんじゃないかなと個人的に感じております。

(会長)

ありがとうございます。今、事務局の方ではなにか対策を考えていますか。

(事務局)

他の自治体でもやっていて津島市でもという話は以前から話があったと認識しております。その時は津島市はやらないというような結論だったと思いますが、こういった会議でご意見を頂いているということは、子育て支援課がという話じゃなくて、津島市の施策として意見の方を挙げていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(会長)

ありがとうございます。私もそういった話を聞きまして、いろいろな方法がとれるかな

と思いますので、ご検討いただきたいと思います。その他どうでしょうか。

(委員)

津島市で特別支援教育の連絡会が年に2回ほどございます。その中で、幼稚園、保育園、小学校、中学校の先生方に集まっていただいて、現場の声というものを、年に2回まとめるんですけども、それを参考にさせていただければと思います。時間としては2時間ぐらいですが、とても時間が足りないのが現状です。

今、我々受け入れる側としての対応と保護者の方の考え方、実際直面する子どもさんにとって、本当にその子にとって何が重要かということについては、それは子ども自身が考えられることではない。大人がしっかり考えて、その道筋を作ってあげるのが、我々の役目だなと思ってますので、ぜひとも市としてもきちっとしたケアを合わせて考えていただきたいなと思います。よろしく願います。

(会長)

ありがとうございます。目の前の問題であると思いますし、お子さんたちはその場で問題に当たっているので、ここで頂いた意見として、全体として考えていただきたいと思いますのでよろしく願います。その他はいかがでしょうか。

(委員)

保育園に年少から入ってくる場合、3歳児健診終わって入ってくるのですが、保護者の中で3歳児健診を受けて、なんらかのチェックがはいったことを伏せて入ってらっしゃる保護者の方が結構見えます。3歳は微妙な時期で、3歳半だと年少クラスに上がってからの健診なので、直接園側と保護者と具体的な話がもてるんですね。3歳児健診をやっているのですが、ちょっと3歳児半健診ぐらいの見直しもあるといいと思います。

(会長)

ありがとうございます。集団の中に入ってみないとわからないというので、そういうお子さんが多いと思いますので、3歳児半健診のほうも合わせてお願いいたします。

(委員)

3歳児健診をやったお母さんから聞いた話で気になったことがありまして、視力検査・聴力検査っていうのを、3歳児になる前に手紙が来まして、検査を練習してくださいという形でやるそうなんですけど、やはり2歳の子達にやらせるのは意味がわからないという話が出てます。結局できないので、本番になってもできないという話を聞くので、わからない子達に健診をして、それで何もなかったねとされるよりは、わかるようになってからの健診というのが第一かと思います。

(会長)

視覚、聴覚の問題、早期発見、本当に大事な問題ですので、きちんと機能して頂けるように検討していただければと思います。その他いかがでしょうか。

それでは活発なご意見ありがとうございました。

(3) その他

棚橋子育て支援課長より、来年2月ごろに次回の会議の開催を説明。

6. 閉会 向井会長